

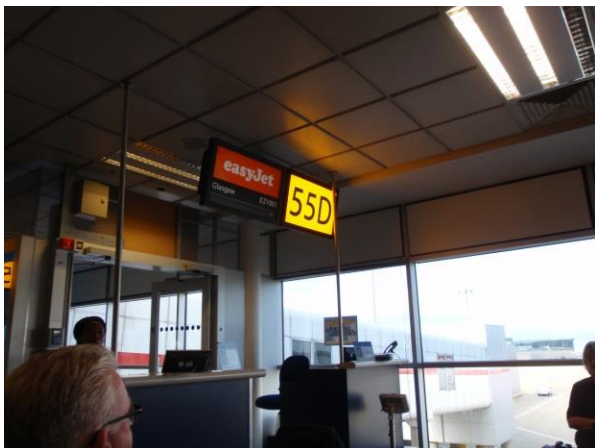
## 『INCHの楽しい仲間たち』 vol.8 その12

## アイラ島再び（その2）

佐伯 順弘（岐阜県）

**DAY3**（10AUG2016）ロンドン→アイラ島  
0520 起床。ロンドン市内から鉄道で、ロンドンガトウィック空港まで移動。0730 に朝食をとってのんびり空港を楽しんでいた。8月8日の昼ごろ自宅を出発したが、8月10日の朝、まだまだアイラ島には到着していない。

0800 セキュリティーチェックを通過。通過後もレストランを始め、多くのショップが並んでいるので退屈はしない。ただ、搭乗口がわからないのでやや心配である。搭乗口はベンチが並んでいるスペースにあるディスプレイに表示されるのだが、まだ自分が乗るべきフライトが表示されないのである。0815 やっと55DのGATEであることがわかり、若干早足で向かう。



しかし、急いだ割にはなかなかゲートが開かず、結局 0850 にやっと搭乗開始である。確か 0855 出発のはずだが・・・いつのまにか 0930 出発に変更されていた。ま、安全確保は大切であるから特に問題はない。しかし！本来そこまで見通してスケジュールを組むものではないのか！とも思う。とはいえ、そういう設定だと駐機時間が長くなり、費用が掛かるため結局こちらの懐が痛くなるわけなので、仕方ない。顧客に安全なフライトを提供し、しかも利益を出さねば経営は続けられない。苦しいのはわかる。しかし、しかしですよ。それでも時間は守ったほうがいいと思うのですよ。こういう思考はたぶん日本的なものなのだろう。時間を守るのが当然、守ることのできない者は人に非ず！的なことを

学生のとときに人格否定までされて叩き込まれるからしみこんでしまっているのだろう。社会人になっても、朝早く出勤し、最後に帰るだけでそこそこ出世できるから日本って怖い国だ。そりゃ、時間を守ろうっていう気にもなる。でも、本当は待たせる方が格上なんだという事実に気づいている人は案外少ない。



ま、そんなことはどうでもいい。また、どうでもいい考察をしてしまった。とにかくロンドンからグラスゴーまでのフライトである。

約1時間でロンドンのずっと北の方にあるグラスゴーに到着。グラスゴーはスコットランドのメジャーな都市である。

ところで、賢明な諸君は理解していると思うが、一応確認しておく。スコットランドは国名ではない。そもそもイギリス、英国ですら、彼らが名乗っているわけではなく、日本が勝手に該当地域をそう呼んでいるだけで、日本以外の国、私たちが言うところのイギリスでも「イギリス」という言葉は通用しない。正式名称は「United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland」と、そこそ長い国名であり、略称が「United Kingdom」、「UK」である。ユナイテッドキングダムとかユークーと言われている。「イングランド」（ロンドンがあるところ）、「スコットランド」（エディンバラやグラスゴー、アイラ島があるところ）、「ウェールズ」、「北アイルランド」の4つの地域が連合した国なのである。

最近 UK は EU から離脱したが、その UK を構成する「スコットランド」は UK から離れたいと前から言っている状態の国なのである。そのスコットランド独立はかなり前から言われており、その昔、イングランドはスコットランドにかなりひどいことをしたらしいので、スコッツ（スコットランド人たちは）はそこそこ根にもっている模様。今までも独立したいという話は頻繁に出てきているようだ。独立問題に介入するつもりは毛頭ないが、スコッチ、つまりはスコットランドのウィスキーを研究にきているので、その研究対象地域であるスコットランドに到着したことははっきりさせておかななくてはならないのである。さて、話はずいぶんそれだが、そのスコットランドの大きな都市はグラスゴーやエディンバラで、それらの都市から各方面のアクセスは便利になっている。今回アイラ島に行くわけだが、今いるグラスゴーから最終目的地のアイラ島へのフライトがあるため、まずはグラスゴーにやってきましたわけだ。グラスゴーもいい街で滞在したいのだが、今は空港で通過するだけである。帰りに宿泊する予定である。

グラスゴー国際空港に到着したので、空港内で、乗り継ぐ LCC の Flybe のカウンターを探す。あっさり見つけて、1100 チェックイン。

さて、1700 のグラスゴー→アイラ島のフライトまで 6 時間。なぜこんなにも長い余裕を確保するかというと、慌てるのが嫌だからだ。もちろんその時間のフライトが安いというのも大きな要素である。時間によって料金が違うのは、ロンドンの地下鉄でもあり、こちらではそういう制度になっているらしい。混雑緩和に良い制度である。また、LCC（格安航空会社、ローコストキャリア Low-cost carrier）を信用していないわけではないが、価格を抑えている分遅れることもあるだろうし、グラスゴー⇄アイラは一日三往復なので、乗れないとかなり面倒なことになるため、大事を取ったわけである。実は、将来的に結構な体験をすることになるのだが、それはまた別の話である。とにかく、どれだけ待とうとも空港の待ち時間を楽しむ術を十分心得ているので、どうってことはないのだ。

さて、昼時なのでとりあえずメシである。パニーニ、エスプレッソ、水 GBP8.6。



普通にうまい。日本のコンビニのものより5倍くらいうまい。ただ、これで約 1250 円。安くはない。どこでも空港めしは高い。居心地の良いその店 MOZZO COFFEE HOUSE を出たのが約 2 時間後。空港を徘徊しようと思ったところ、すぐ出会ってしまったのが、コンビニ的なスーパー。コンビニよりは大きいけれど、スーパーマーケットというには小さい感じ。そのコンビニの名前は TESCOexpress（日本にもあるのかな。）イギリスでは各地にあることを確認している。旅は結果的にしっかり食べてしまうことも多いが（予想以上に大盛で来ることがある。特にフライドポテト）、基本的に少なめに食べることにしているので、ちょっとしたものを少しずつ購入することになる。



で、小エビのサンドイッチ。小エビのサンドイッチがあれば、買う確率はかなり高い。これはビバリーヒルズ・コップでエディー・マーフィーが自分を追跡してきている刑事を振り払うためにホテルのデリバリーで小エビのサンドイッチを届けさせるシーンがあり、その時にそれはうまいのか？と思ったことがそもそものこだわりの始まりである。結論として旨いのだが、食べる度にビバリーヒルズ・コップのあのシーンを思い出す。ま、どうでもいい話

だ。ポテチと水を合わせて 3GBP である。待合スペースのベンチで小説「赤目小藤次」を読みつつ、水以外を完食。そこで、アイラ島から戻ってきたときに市内まで行くためのバスをチェックしていなかったことに気づき、探索を始める。ところが、空港を出たところにバス乗り場があり、あっさりミッションコンプリートである。下調べの通り、グラスゴー空港から市内のBuchanan St.までは500番のバスで行けることを確認。で、どうしようかと思ったが、セキュリティチェックで時間がかかる恐れありと予想し、かなり早いと通過することにした。ところが予想外にあっさりと通過してしまう。セキュリティチェック通過後のエリアには、ブランドショップ、コンビニばかりではなく、バー、レストランなどが予想以上に多くあったのだが、もう腹が食べたくないと言っているのを止めておく。三連続、四連続で悉く予想は外れている。しかし、1時間後でないと搭乗ゲートが表示されないらしい。この状況で何かを食べながら待つという技は使えない。それでも様々なショップを巡回し、ウィスキーの品ぞろえや価格の点検、香水の香りの点検などしておくべきことは数多くある。そんなことをしていると、1時間はあっという間に過ぎ、ディスプレイに搭乗ゲートは 01 であると表示されたのですぐ向かう。1625 のことである。



1640 すぐ搭乗が始まり、1714 take off。あれだけ待って 1740 touch down。ほぼ 30 分のフライト。あっという間にアイラ島に到着だ。

8 月 8 日の昼頃に自宅を出発し、時差はあるものの 8 月 10 日の夕方の到着である。移動は旅をしている感じがして好きなので、苦にはならない。飛行機大好き、列車に揺られてというのも好き、船は揺れなきゃ好き。(その昔、神戸発上海行きの船は大変だった。船内のトイレは酸性の香りがする地

獄だった。) トラブルさえも素敵なスパイス。空港や駅など人々が集まる場所も楽しい。ということで、そんなに大変な思いをすることなく、アイラ島到着である。

「ただいま、アイラ島！」

空港を出るとバス停が近くにあり、出発時刻を調べようとしている。「どこまで行くんだい？」と人のよさそうなおじさんに(自分も十分おじさんだが、旅の途中は完全に大学生の感覚である。)聞かれ、「ボウモアまで行きたいんだよ。」と答え、乗せてやるという。やはり、俺の好きなアイラ島の人々は素敵な人が多いのだ。空港に家族を迎えにきたおじさんで、車の中でいろいろ話をした。アイラにはウィスキーを楽しみに来たんだよ。特にラフロイグが好きなんだという、おじさんはそれも悪くないけど、ブルイックラディもうまいよという。なんと、その蒸留所で働いている人だった。確信した。スコッチウィスキー好きに悪い奴はいないのだ。誰が何と言おうと確定である。静かに心の中で一つの真理を発見し、納得していると、あっという間にボウモアに到着した。ボウモアは有名なボウモア蒸留所がある街である。



車に乗せてくれた彼は、これからブルイックラディ蒸留所までいくのだろう。

感謝を告げて車を見送った。

降りしてもらったところから数分で「定宿」(まだ 2 回目だが、そう呼ばせてもらう。)であるボウモアホテルに 1756 到着。



部屋で暫し寛いだ後、バーへ出撃だ。

フィッシュ&チップスを頼み、そしてビールを1 PINT (UK パイントは 568ml)。旨し。誰が何と言ってもこれはうまい。

バーにはビールサーバーがずらりと並ぶ。ビールの銘柄は数えるほどしかわからないが、サーバーについているラベルを見て、ジャケ買いならぬラベル買いで立て続けに3杯。



アイラ島に到着した喜びで調子に乗り過ぎた。もう食べられない。ビールもそうだが、付け合せのポテチが多すぎる。ありがたいのだが、多すぎる。こちらではこの多すぎるのが標準らしい。みんな普通に完食している。みんな食い過ぎだよ。欧米人は全体的に大量に食事を摂取する傾向がある。だからあんなにでかいのか。

2200 ごろシャワーを浴びて就寝。

**DAY4** (11AUG2016) アイラ島 曇時々雨  
安心して寝過ぎた。雨が降っている。風も強い。  
そして、寒い。今は夏だよ。

0820 朝食へ。フルブレックファースト。つまり、シリアルとかだけじゃなくて、卵とかベーコンとか全部というやつ。イングランドのとはハギスなど内容が違うのである。ハギスは以前解説したので、忘れた読者諸君は参照されたい。



食事後、部屋に戻り、「水族館ガール」を読む。

1055 街の探索へ出かける。今日はボウモアという街をよく知るための日である。また、明日からの本格的な蒸留所探訪のための情報収集の日でもある。



ボウモアのメインストリート。正面奥にある建物がこの街のランドマーク的な教会である。

空を見ればわかるが、曇りや小雨が多い。時々強い日が射すこともあり、一日の中に四季があるとはよく言ったものだと思う。インフォメーションセンターで交通手段などの相談をし、地図を買い、綿密に最終的な行動予定を立てた。

昼食を抜き、夕食にはビールを2PINT 飲んで寝る。

(続く)